



生活道路幅員4m 記憶の道

産業道路幅員6m+遊歩道

宿藤浜、第一回要望図

産業道路 曲がりを少なくする

道路などの計画要望

提出



上道さん

提出図を更に練りこみ申

測量同意すすむ!!

4区 要望内容

★水源・魚付林・湾が有機的に融合した住環境をつくるをくりたい★森を守り湾の総合的な環境(沢水・景観を守る、土砂災害防止する、養殖を豊かにする)を破壊する道路や宅地造成をしない

道路の要望1 各所に遊歩道と公園をそなえもつ。幅6mの海岸道路(産業道路)をつくる。観光に寄与する美しい外観の協同漁具庫を各所に備えている。2) 海抜12m以上の位置に現在ある生活道路を水平に北から南へつなぎ通す。各所で海岸道路や既存の海から山へ向かう路につなぐ。水平に貫通される生活道路は図示するが北から上道へ小沢(大久保尻)北古館へ中島を結ぶこと3) 道路には夜間の地震を想定し各所にソーラー街灯・放送を備えている

4 水平の生活道路(幅4m)は津波到達路とし、時と共に311大震災を風化させないため記憶保全のため石碑を建立し未来の人人に伝える。その事によって生活道路より海側に住宅を建設実施させぬよう戒める

5 上記の生活道路を整備することによって各地に散り暮らす被災者の藤浜生活復帰を誘導し藤浜地区の人口の流失を防止する

★集落内個別高台移転や集落内高台集団移転(2, 3戸)の新規住宅地開発を容易にし誘導し★地域の人口増化を推進させる★そのことにより面的に広がるような乱開発を阻止し漁業集落の景観を守り地域に暮らし人々が所有する資産価値を高める働きをもたせる

★既存生活道路の性能向上によつて日常生活の利便性を向上させる

★生活道路は、両端が安野沢、越路を通り宿浦地区につなぐ★集会所について災害時に避難し集い暮らすことができる集会所を生活道路に接続し建築する★備蓄庫を持つ★沢水をため置く★夕日の見える温泉(大浴場)を備える★燃料は魚付林から出る材木を活用する★電源喪失に備えソーラー発電と蓄電設備をもつ★会議室を兼用し宿泊可能な部屋を持つ★厨房を備え持つ★共同遊歩道や公園を各所に備え持つ★観光客などに提供す市役所などの協働関係について6月10日の要望案づくりには唐桑支所の課長さんをオブザーバりにお招きし参加いただいた。今後もし共に働いたり役所の人々が情報共有を拓いていくことにする。